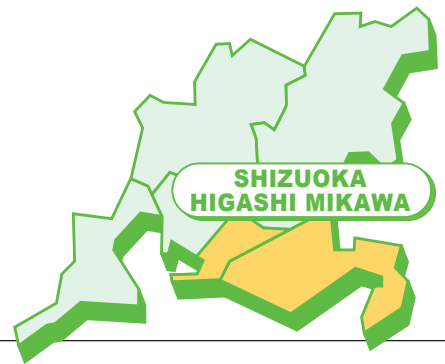


# 中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

## 新東名開通 浜松いなさJCT～豊田東JCT開通への期待

2016年2月13日、新東名高速道路(新東名)浜松いなさJCT～豊田東JCT間が開通し、2012年4月に先行して開通した区間と合わせ、新東名と東名高速道路(東名)による約200kmのダブルネットワークが形成された。ここでは、先行開通による経済効果などを振り返ったうえで、新区間の開通によって期待される効果を紹介する。

### 1. 2012年の開通区間(御殿場JCT～三ヶ日JCT間開通)の経済効果等

**①生産・物流拠点の立地** 2013年の静岡県における工場立地件数は、開通前の約2倍に増加した。新東名へのアクセス性の高さ、ダブルネットワークによる渋滞の緩和、代替ルートの確保など、高速ダブルネットワークの信頼性等が評価され、IC近くに造成された工業団地等を中心に、工場や物流センターの立地が進んでいる。

**②観光振興** 浜松SAスマートICに近接する「はままつフルーツパーク時之栖」の2013年の入場者は、開通前の約2倍に増加した。また、富士山が世界文化遺産に登録されたことと相俟って、同年の御殿場口登山者数は、2010年に比べ約2倍の17,709人となった。他にも、静岡県の内陸部にある観光施設では県外利用者の割合が増加するなど、観光客の増加にも寄与している。

**③新しいまちづくりの推進** 静岡県は、防災・減災と地域成長の両立を図る『「内陸のフロンティア」を拓く取組』を県内全域で推進している。そのうち内陸・高台部では、新東名IC周辺で工業団地やゆとりある住宅団地の整備など新しいまちづくりが進んでいる。

### 2. 新区間の開通に対する期待

**①新たな企業立地** 新城市は、2018年度からの分譲に向け、新城ICの北側に約3.7haの工業団地の計画を進めている。この工業団地は、東京・大阪の中間に立地し、高速ダブルネットワークによる高い信頼性が期待され、既に多くの物流企業から



の問い合わせがあることから、地域経済の活性化、雇用の場の確保などへの期待が高まっている。

**②新たな観光需要の創出** これまでの慢性的な渋滞が緩和され、名古屋から奥三河地域への観光がほぼ日帰り圏内となることから、新たな観光需要の創出が期待される。既に、新城IC出口近くの道の駅「もつくる新城」の利用者や、湯谷温泉の日帰り入浴客が開通前の約2～3倍となるなど、新区間の開通を機に奥三河への観光客が増加しており、これまでにない新たな観光需要の展開も大いに期待される。

### 3. 今後の期待

新区間の開通によって実現した約200kmのダブルネットワークが地域経済の活性化や、防災・減災対策の充実など、地域にとって多くの効果をもたらすことが期待されている。また、新東名と連繋する中部横断自動車道や三遠南信自動車道の早期整備によって内陸部との道路ネットワークが拡大し、中部圏のさらなる発展に繋がることが期待される。

(静岡・東三河担当 山崎 豊)

取材協力: 静岡県政策企画部、新城市  
参考資料: 中日本高速道路株式会社ホームページ「地域生活や地域経済への波及効果が拡大」